

かぐらおが

(題字は山田守英学長)

第 23 号

昭和55年3月1日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課



旭川冬まつり

内 容

第二期生の卒業を祝う……………山田 守英… 2	サークル紹介…………… 9
第二回卒業生の諸君に……………保坂 明郎… 3	研究室紹介……………田村 正秀… 15
卒業にあたって思うこと……………田川 博… 4	歩くスキー講習会…………… 16
春を待ちながら思うこと……………吉田千登美… 4	冬季スポーツ大会…………… 16
論争を基盤にして -(クラブの発展)-堀毛 清史… 5	スキー遠足…………… 16
昭和54年度講演会一覧…………… 6	窓 外……………保坂 明郎… 16
1年のあゆみ…………… 7	



第二期生の卒業を祝う

学長 山田守英

わが旭川医大の第二期生諸君は、昭和49年春入学して以来6年間に所定の課程をすべて修了し、いよいよ卒業の日を迎えることになった。諸君は今、過去6年間の大学生活を振り返り、幾多の困難を克服して、初志を貫いて今日に至ったことを喜び且つ満足に思い、更に明日からの修業に新しい意欲を燃やしていることであろう。ここに諸君の栄えある卒業を心から祝し、光輝ある前途に幸多かれと祈りつつ、歡んで諸君をこの思い出深い学園からお送りしよう。

諸君は大学において医学の専門知識を学び、進学するにつれて、医学が如何に広く、専門は細分化し、奥深い学問であるかを知り、医術もまた広汎で精密度が高く且つ厳しい熟練が要求されていることを知った。すなわち大学における6年間という限られた期間では、医学の体系的な知識を深く知り、医術に熟達することは到底不可能であることは自明の理である。

諸君の大学における学習目標は、将来医人になる素地としての医学の基本的な原則を学び、事象の観察、分析、判断そして正しい理論づけをすることすなわち科学的方法論を修得することであった。従って諸君にとって大学卒業は、医学学習の終着点ではなく、引続きここを出発点として、今までに修得した医学の基本的原則を土台に、実社会において医療の実践や医学専門の研究において、多くの経験を積み重ねつつ、研修・研究に励みではじめて、すぐれた医人となることのできるのである。

医学は人間を対象とし、その生命にかかわる事象を広い視野から探究する学問であるが、その究極の目的は、学問を医療として実践に移し、社会の人々の健康保持、増進に寄与することを使命としている。それ故に医療は人類の福祉に繋がる公益奉仕の生業であって、一般産業や企業とは自ら異なるものである。

諸君は医人となることを生涯の天職として選んで大学に入学したのであるから、医学の専門を通して、社会の人々の健康福祉に奉仕貢献することは、諸君の当然の責務でなければならない。

諸君は本学に入学した当初、医聖ヒポクラテスの宣誓を学んだはずである。今こそ諸君は、このヒポクラテスの宣誓を思い起こし、これを諸君自らの宣誓として、明日からの研修・研究に励み、将来すぐれた医人として医療の実践に、医学研究に精進していただきたいものである。

医療の実践に当っては、対象は人間であるから、医人

は医の倫理を弁えた、他人から尊敬信頼される高潔な人格者でなければならない。近代の偉大な医人シュワイツァーは、その生涯をアフリカにおける医療救済に捧げたが、その間に悟り得たことは「人間の生命への畏敬」であった。これこそは医の哲理であり、医の倫理の基本でもある。そこには、人間愛、奉仕、献身、寛容、公正、平等、同感、協力などが包含されている。将来医人となる諸君はこの偉大な先哲の姿を心に浮べながら、医療の実践に、医学研究に精励されんことを希うものである。

現代医学の進歩は、ますます専門を細分化し、医療技術の著しい発達と多くの開発を促したが、医療に携わる医師には、医学と医術に依存するあまりに、その関心は病氣そのものに集中し、それに悩む病人を疎外する傾向があることは否定できない。医療の根本理念は病人を病から救い健康に回復させることにあって、医療技術は病人から病因を取除く手段なのである。諸君は、医療の対象は病人であること、すなわち、諸君の前には「病氣があるのではなく、病人がいる」ことを忘れてはならない。

わが旭川医大は、北海道の辺地における医療過疎を解消し、医療水準を向上させるために、時代と地域社会の強い要請によって設置された。従って旭川医大の果たすべき役割の一つとしては、地域社会の要請に応え、その医療水準向上に寄与し、地域社会の人々の健康福祉に貢献することにある。本学は昨年第一期生が卒業し、今回諸君が第二期生として社会に進出することになるが、地域社会は、本学の卒業生諸君が、近い将来、地域の医療に直接間接に参画することを期待し、注目している。諸君はこのことを心に留めて置いていただきたい。

古い大学には、固有の伝統があるが、それは長い歴史の中で母校の学生や卒業生によって築かれたものである。若い大学である本学にも、年輪を重ねるうちに、固有の伝統が築かれるであろう。卒業生諸君には第一期生と共に、本学建学初期のパイオニアとしての自覚と誇りをもって、今後斯学の研修・研鑽に精進し、優れた医人となり、先達として後輩の手本となって、本学に固有の誇り高い伝統を築いていただきたいものである。

重ねて、第二期生諸君の卒業を祝し、今後の発展と御健闘を祈って止まない。



第二回卒業生の諸君に

保坂明郎

卒業おめでとう。先ず心からお祝いの言葉を申し上げます。本学第二回生として心身ともに若さに溢れた諸君を社会に送り出すことが出来るのは我々の誇りでもあり、楽しみでもある。義務教育を含めて最低18年間の学業を終了したということは、それ自体人生の大きな区切りの一つであり、卒業式は実質的な成人式であると思う。両親を初め社会から与えられた有形無形の恩恵に対し謙虚に感謝すると同時に、医学を通じて自己の知識・技量を大いに社会に還元すべき出発点に今立ったことを認識して頂きたい。

諸君が入学したのはオイルショックのさめやらぬ49年4月であった。いわゆる新設医科大学の開学・設備は社会状況の影響をまともに受けて大巾に遅れたが、入学式こそ仮校舎で行われたとはいえ、間もなく現在の新校舎に移転出来るようになったのは幸いであった。私は48年5月から西アフリカに居り、酷熱の地でガーナ大学医学部眼科教室の整備の手助けをしており、諸君より1年後、50年4月に旭川に着任した。間もなく教務委員の一員となったことが、諸君の学年担当を引き受ける一つのきっかけになった。公私ともに中々大変な仕事ではあったが学生とこのような形でつきあえることは少なく、私としても貴重な経験だったと思っている。

医学部の場合多くは卒業即就職というわけには行かず、なお何年かの研修期間を必要とするが、卒業生諸君の多くが本学に留まって研修する計画を持っていることは諸君のためにはもちろん、本学発展のためにも大変喜ばしいことである。ただし従来のように学生対教官ではなく、後輩対先輩の関係になることを注意しておきたい。極端に言えば学生時代は与えられたものを摂取し吸収すればよいが、卒後は所属部局の仕事に積極的に参加し発展させなければならない。つまり大学の教室は学生を教育する義務の他に、秀れた業績を残す(臨床系ならば、さらに秀れた診療を行なうことが追加される)責任があるから、学生時代のような受け身の甘え方は許されず、そのような態度ならば数年の中に脱落することになる。

卒後何年たてば1人前になれるかは学生が屢々発する質問であるが、これはイソップの話を持ち出すまでもなく、その人の歩き方を見てからでないと何とも言えない。他科のことはよくわからないが、眼科では3年程度で独り歩き出来る人もあるし、10年たっても余り進歩のない人もある。その人が有為な眼科医になるかどうかは概して初めの4～5年で見当がつく。他科でも年数の違

いこそあれ、このようなおよその目安はあるに違いない。こう書くと長年にわたる学業から解放されたこの時点で、がっかりする向きがあるかと思う。しかし断っておきたいのは、学生時代の勉強は浅く幅広いことが要求されるが、卒後は主として自己の守備範囲を掘り下げ広めて行く勉強なので、むしろ楽しみが多く、苦痛を伴うことは少ないことである。実習で各科を廻ってみて、わずか1年の先輩に過ぎない1年目の研修医との間に大きな隔りが出来ていることに気づいたと思う。このことは地に足のついた勉強が如何に強いを示す反面、十分な「やる気」と正しい「やり方」で進めば数年のうちに逆転することもありうることを示している。特に誤解を恐れず言うのだが、私は不当に競走心を煽ろうというわけではない。冷たく聞こえるかも知れないが、新しい大学の卒業生従ってその大学が世の中に評価されるには20年以上の歳月が必要である。私が何を言いたいのか、少数の人は理解出来ると思うが、その意味で1回生とともに道を切り拓いて行かねばならない運命にあるし、それを支える芯の強さも要求されることを胸に刻みつけて頂きたい。

さて大分堅苦しい耳の痛いようなことを書き連ねて来たようである。丁度手術をする時のように、余りの緊張は却って失敗を招くことがある。覚悟は覚悟として内に秘めてリラックスすることも大切であるし、それが無いと長い人生息切れがしてしまう恐れもある。それには専門以外の趣味を持つことである。患者をなおすことが唯一の楽しみだなどというのは嘘で、人間というのはもっと弱いものである。まともな人間なら何時かは「行きづまり」とか「空しさ」を感じることもある筈で、そういう時こそ専門以外の「遊び」が余裕を取り戻す原動力になって呉れるものである。

最後に、実はこれが一番大切なことかも知れないが、常に健康状態にあることである。今後の活躍を期待しつつもう一度、卒業おめでとう。

(第6学年学年担当、眼科学講座 教授)

卒業にあたって思うこと

田川 博



昭和49年春 — ニセコ比羅夫スキー場 — 終日スキーを楽しみ、腰を押えつつ旅館に帰るやいなや親からの電話。「合格したぞ。」春なんだなとしみじみ思う。

4月 — 入学式 — 年令では決して負けないつもりでいたのだが、おじさん風と同級生多数に圧倒される。

5月 — 長年のスポーツへの欲求不満からテニス部に入部。毎日のように近文のコートに通うが、1年で自分の才能に見切りをつける。

夏休み — 久々の — 今度は旅行への欲求不満を解消すべく九州一周。同級生に案内を頼む。

秋 — 遅ればせながら麻雀への挑戦 — 出足の差が敗因となる。

冬 — またスキーの季節 — スキー部に入部。パンダ顔負けの雪焼け。

ある日突如、家教をやろうと思いつき張り紙を出す。(この家教で懲りたのか2度とせず。)

このように初めの1年間は非常に解放的な気分で、休養学部の楽生生活を全力で謳歌したわけです。(当然、来たるべき試験の際には真青になって勉強をして居りましたが。)今振り返ってみても、この1年間は非常に新鮮でありそれなりに充実していました。

ところが、その後は基礎科目の実習等に追われ、記憶に残る事と言えばスキー部での東医体・ダンスパーティー等で、いつの間にか4年になっていました。何かに夢中になっている同級生を見ながら、何か満たされない学生生活を送っていた頃でした。

4年の春に、突然同級生から「細菌学教室でMolecular Biologyを読んでいるけれど参加しないか」と誘われて、これが今思い起こすと学生生活の1つの転機となったわけです。夏休みに、同級生と助教授の実験についてまわるといふようになり、蛍光抗体法、hybridization等々、講義で聞いた事が実際に目の前で繰り広げられていきました。いつのまにか、ぎこちない手付きでピペットを使い始め、実験結果に一喜一憂し、非常に乏しい知識なりに実験系を組んだりして、時には朝から夜中まで細菌学教室で過ごすという日が続きました。そしてついに、教授・助教授・助手の先生・事務官と多数の人達の好意に甘えて、細菌学教室の居候を決め込んでしまったわけです。助教授の指導のもと支部会で同級生が活躍したり、北大までウイルスをもらいに行ったり、また札幌に文献を捜しに行ったり、いつのまにか自分でやりたい事を捜し始めていました。今までの与えられ、強制されてやってきたよ

うに感じていた勉強というものから、学問というものに初めて触れた様な気がし、先生方の仕事に対する情熱・研究の楽しさ楽しさというものを直接感じとれました。そして、学生生活に充実感が湧いてきたのがこの時期でした。また、実験の合間にやるジンギス汗・教養講座等も大きな魅力だったことを付け加えて。

こんな充実感とは裏腹に、私の能力の不足から、卒業試験、国家試験を控えて、他の事を考えることが許されない時期へと突入しました。医者を造る医学部へ入った以上は国試を通らねばならず、私にとっては気の遠くなる程の膨大な量の最低限の知識を、ただひたすら暗記する日課が始まりました。周囲の同級生を見ても、つい昨日までは他の事に熱中していた人達が同じ日課を消化しており、医学部というのは大変な所だったのだと再認識したものです。

しかし、この6年間を振り返り、充実していたと思いつくのは興味のもてる事に夢中になっていた時期です。この6年間は医学生としての6年間であると同時に、青春の貴重な6年間ではないかと思えます。スポーツでも遊びでも、夢中になって何かができる最良の時期だったのではないのでしょうか。

もし、後輩の皆さんの中に、全力でぶつかれるものが見つけ出せないでいる人がいるならば、興味の持てそうな講座の戸をたたいて、先生方の好意に甘えて何かをやってみるのも1つの方法ではないでしょうか。

(第6学年学生)

春を待ちながら思うこと

吉田 千登美



私の人生ピアノ一筋と、10年間も夢みていた音楽の道を諦め、医者になろうと考え始めたのは今から8年ほど前のことである。人助けをしようとか、偉大な研究をしようなどと大それた

希望を持った訳ではなく、何となく憧れたというほんの些細な理由からだった。こんな調子では最近のように面接試験などがあると真先に不合格にされてしまいそうだが、幸い当時は面接もなく、人生波乱万丈の方が面白いとばかりに医学の道に足を踏み込むことになった。

入学当時、果てしなく長く感じられた6年間も、今思うと時間に加速度がついていたかのようにあっけなく過ぎてしまった。新設医大一白亜の殿堂と最高に美化された旭川医大のイメージは、入学式の日、驚きもどきの床やカゼクルもどきの壁といった現実には脆くも崩れ落ち、新校舎へ移転後も昼食用パンの争奪戦で力強く鍛え

られた。以後、多少オーバーな表現ではあるが『試験・レポート・出席カード』の三大恐怖と、時のたつのも忘れて取り組んできた訳である。卒業試験最終日になぜか出席カードが配られ、これで本当に最後ですと念を押されているようで、妙な感慨に耽ったものだ。

6年間の自分の生活を振り返って、残念に思うことが2つある。まず第一に、知識をつめこむことにばかり熱心で、じっくりと物考える態度を忘れていたことである。いつの間にか愛読書といえば絵の方が多本ばかりになり、暇さえあればテレビの虫となっている。井戸端会議の話題といえば次の休日の予定と早く卒業したいわという、およそ進歩のない事ばかりで、卒後の進路に関しても最近必要に迫られてやっと真剣に考え始めたという具合である。今も6年ぶりに原稿用紙に向かい四苦八苦…考察や創作に関する大脳皮質の回路がすっかりさびついてしまったらしい。

第二には趣味の時間が殆ど持てなかった、というより持とうとしなかったことである。高校時代に人生を賭けるのは断念したピアノであるが、すっかり忘れてしまうことは不可能で、下宿にまで持ちこみ引越しのたびに友人の手を煩わせていた。今でもピアノの音を聴くと無意識に指が動き出してしまうほど大好きな筈なのに、まさに宝の持ち腐れでめったに練習したことがない。演奏技術とか頭の回転とかいうものは川に浮んだ船と同じで、自ら上っていこうとする努力を怠るとみるみる下流に流されてしまうものようだ。

ピアノばかりではない。読書らしい読書を殆どしなくなったことが今悔まれてならない。ある先生が講義用プリントの隅にこう書いておられた一心の豊かな医師になるには出席カードなど破りすてて、幅広い読書をすることです。真面目の上に排泄物の二字がつかまませんように。これを見つけて感銘を受けたのは卒業試験の時で、既に手遅れだった次第である。

いろいろ考えてみると反省ばかりが浮かんでくる6年間だった。自分は女だからという周囲に対する無意識の甘えもなかったと断言はできないし、昔から人と接するのが苦手で、人間相手の職業である医師になるには致命的な欠陥と自覚していた。しかし最近、それが少しずつながら改善されてきているように思うにつけ、友人達を始めとする私を取りまく環境がいかに恵まれていたかを痛感している。

8年前に音楽の道を諦める決心を促したのは「君の出す音は雑音だ」と厳しい指摘を受け、その壁を越えられなかったことだった。これから先、医師としての自分の前にもそれ以上の壁が立ち塞がることあるだろう。自分の無力さをまざまざと見せつけられる機会に何度直面することか考えると、身の引き締まる思いがする。でも今度は簡単に降参はしない。少なくとも、免許証を持っているだけのペーパードクターにはなるまいと固く心に誓っている。

(第6学年学生)

論争を基盤にして

—(クラブの発展)—

堀毛 清史



6年前、大学に入学した時には、サッカー部はまだ出来ておらず、体育館(旭教大附属小学校)で、こわれたバスケットボールを蹴っていた1期生数人と2期生に呼びかけ、クラブを作った。当時はグラウンドも何もなく、総勢20名程の新部員は、思い思いのトレーニング姿とズックで借りも

ののグラウンドに集まり、独自の練習をはじめた。最初、クラブをやっていく上での基本的姿勢をどうするか、つまり、好きな時に自由に参加する、という風にするか、やるからには、キチッと集まるかでもめた。他のクラブも出来たてで、同好会に毛が生えた程度だったが、サッカー部はまだ2次性徴すら始まっていなかった。ただサッカーは下手でも楽しく、興奮し、そしてうまくなればなる程それが倍加する、そうするとなおさら一生懸命やり上達するというpositive feedbackが、はっきりしているスポーツの様だ。あやふやな「クラブ」の状態のまま、すこしずつ皆うまくなり夢中になり出した。3期生が入って来て、ようやくクラブらしく練習もし、試合もして「うまく、そして、強くなるためのクラブ作り」がなされるようになった。この最初の3期は創設期といえるだろう。

4期生が入学、上手くて、意欲にあふれた新入部員が加入し、ここで「勝つ事」を意識したチーム作りに入った。連日厳しい練習をやり、それ故の勝った時の喜び、負けた悔しさを味わっていった。けれども練習はしても上手くならない者はなかなか試合に出られず、不満が募っていった。そして、この年の地区体。2回戦で小樽商大と当たった。当時、樽商は、道内でBest 3に入るチームで、力の差は相当なものと思われた。試合の前日のミーティングが始まると、いかにして少い点数差で負けるか、いかに守るか、という方へ話は進んだ。とにかくうまい者をバックにして守りを固めよう。話が決まりかけた時反対意見が出た。日頃練習していないポジション、フォーメーションをやって、たとえそれで少数点差で負けても、本当にそれが、チームにとっていいんだろうか、練習の成果なんだろうか、…息詰まる様な雰囲気の中で、日頃あまりしゃべらない、補欠のSが発言した。「僕は確かにヘタだけど一生懸命練習した。僕が試合に出たい。」皆の気持ちは、揺れ動いた。毎日の練習と結びつかない試合、一体何のために試合をするのか、何のために練習するのか。もちろん、強剛相手に守りを固めるという手はある。でもそれは、そういう練習をしての上だ。僕

達は、練習の成果として試合をやりたい。皆の気持ちは決まっていた。練習してきたフォーメーションで試合をやる。翌日、試合がはじまった。前半は押されて、3-1とリードされたが、ハーフ・タイムに戻って来たイレブンの顔に迷いはなかった。いける。練習で培ったものが試合に出てくる。自信に溢れていた。後半、周囲の驚きをよそに、ついに3-3に追いつき、延長の末、引き分け、バクチに強いKが、しっかりと抽選勝をもぎとった。

この時を境に、サッカー部は、常に大きな問題をかかえながら動き出した。勝負第1か、サッカーにうちこむ者みんなを伸ばしていくか。練習、試合、ミーティングを重ねる中で鍛えられながら、次第にわかって来た。この2つは二者択一ではない。二重ラセンの様に両方からみあって追いかけていくものだ。新しく5・6期生を迎え、この延長線上でのクラブが続いた。すでに実力は、東医体の中でもトップグループとなり、道大会でもBest 4に入った。人数は不思議と11人+α程度であり増えず、少数精鋭集団であった。

7期生が入学し、14人もの新入部員が入りこころから新しい展開が始まった。人数が多い上に初心者が多い。経験者の多かった今までのやり方をくり返すだけではうまくいかなかった。今までに培った経験を伝えるのに「以心伝心」というわけにはいかないのだ。新入生の間に不満が出始めた。それは集約すれば、自分達の伸びる可能性(能力)が十分に生かされていない。互いに鍛え合う中での共通理解がないというものである。不満が出る裏には必ず喜びがあり、それをもっと強く、もっと確かに掴みたいという希望がある、情熱がある。「不満を大切に」度重なる話し合いがもたれた。新入生は最初何もわからず、先輩のいう通りやっているが、そのうちに上達し、おもしろくなる。そうなると試合に出たくなる。勝ちたくなる。だがそれだけでは、行き詰まる。強くなるスピードが落ち、共にやっている仲間的心がつかめず不安になる。「どうしてクラブをやっているのか」という基本的な疑問に立ち返らないと集団としてのクラブも個人的成長も続かなくなる。つまりクラブの発展と同じ事(僕達が6年間かかってやってきた事)を要領よくくり返し確認していく必要がある。個体発生は系統発生を要領よくくり返すという事だ。そしてサッカー部はすでに新しい段階に入った。

以上サッカー部の発展と歴史について述べたが、こうやって振り返ってみるとクラブのturning pointにおいて互いに大切にしたいむきな話し合いが方向をきめてきた事にある感動を覚える。

各クラブとも同じ様な悩み、苦勞をしながら頑張っていると思う。クラブをやっていく上で、常に何故クラブをやっているのか、の疑問を絶やさず(これに対する答え自体が成長するため)、個人の伸びる力、喜びを味わう能力を生かし、互いの切磋琢磨の中で力を伸ばしてい

て欲しい。そしてこれを支えるのは結局スポーツを愛する心と、地道で真剣な論争の積み重ねなのである。

サッカー部はじめ各クラブの発展を願います。

(第6学年学生)

昭和54年度講演会一覧

昭和54年度本学で開催された講演会は次のとおりです。

(庶務課)

日時	演題	演者	担当講座
5月17日	慢性関節リウマチの治療方針	神戸大学医学部教授 広畑 和志氏	整形外科学講座
5月30日	脳腫瘍の国際分類について	西ドイツ、マックス・プランク脳研究所長 K・J・チュルビ氏	病理学第一講座
6月2日	僧帽弁移植患者の長期予後	新潟大学医学部教授 江口 昭治氏	外科学第一講座
6月6日	ウイルス抑制因子(インターフェロン)研究の現状	東京大学名誉教授 長野 泰一氏	細菌学講座
6月15日	カテコールアミンの発達生物学—妊娠中のカテコールアミンの動態ならびに各種ホルモンの影響—	フランス、パリ大学助教授 アサン・バルベ氏	薬理学講座
6月23日	神経学について	九州大学医学部教授 黒岩義五郎氏	脳神経外科学講座
6月28日	CT(コンピューター断層)による肝・脾疾患の診断	愛知県がんセンター放射線科第1部長 本戸長一郎氏	放射線医学講座
7月13日	イギリスにおける医学教育	イギリス、ダンディー大学医学部教授 O・H・ピーターセン氏	内科学第三講座
8月4日	睡眠機構	アメリカ合衆国、ハーバード大学医学部教授 J・A・ホブソン氏	生理学第二講座
9月13日	近年のウイルス性疾患流行の推移について	国立予防衛生研究所ウイルスリケッチャ部長 大谷 明氏	公衆衛生学講座
10月3日	レーザーの臨床医学への応用について	早稲田大学理工学部教授 大頭 仁氏	眼科学講座
10月3日	医学研究におけるホログラフィーの応用	西ドイツ、ミュンスター大学講師 G・ホン・バリ氏	眼科学講座
10月17日	ハリ麻酔とハリ治療	大阪医科大学教授 兵頭 正義氏	麻酔学講座
1月24日	胃・膵臓器相関—とくに消化管ホルモンからみて—	京都大学医学部教授 戸部 隆吉氏	外科学第二講座

1年のあゆみ



第7回入学式

昭和54年

4 月

1日 大学院医学研究科設置

専攻名	定員
細胞・器官系	9名
生体情報調節系	14名
生体防御機構系	5名
人間生態系	2名

1日 学生入学定員20名増（入学定員120名）

1日 参与に清水文彦（東京医科歯科大学名誉教授）発令

13日 第7回入学式

16日 大学院入学試験

19日 大学院入学試験合格者発表（6名）

21日 昭和54年度新入生合同グループ研修

22日 （於 層雲峡）

合格率93.6%

22日 大学院入学試験（第2次）

24日 大学院入学試験（第2次）合格者発表（5名）

6 月

14日 第5回医大祭

（テーマ「新たなる模索—確かな伝統を築くために」）

17日



7 月

1日 学長に山田守英（現学長）が発令された。

14日 第26回北海道地区大学体育大会（当番校北海道大学）

16日 <本学参加種目>陸上競技・準硬式野球・軟式庭球・バスケットボール・バレーボール・サッカー・卓球・バドミントン・柔道・剣道・弓道

<本学参加学生数> 166名

<成績> 男子30大学中15位

女子32大学中19位

20日 第22回東日本医科学生総合体育大会夏季大会

31日 （主管校 東京大学医学部）

<本学参加種目> 陸上競技・準硬式野球・硬式庭球・



28日 大学院授業開始

5 月

15日 学長選挙（山田守英現学長再選）

16日 第67回医師国家試験合格者発表（本学合格者73名）

サッカー・バスケットボール・バレーボール・卓球
 〈本学参加学生数〉 215名
 〈成績〉 34大学中19位

9 月

12日 秋季体育大会 (バレーボール・サッカー・ソフトボール)



26日 昭和54年度解剖体追悼法要 (於 東本願寺旭川別院)

10 月

1日 第22回東日本医科学生総合体育大会冬季大会
 3月31日 (主管校 東邦大学医学部)
 〈本学参加種目〉 ラグビー・スキー
 〈本学参加学生数〉 54名
 20-21日 テニス講習会 (主催 学生課)

11 月

7日 第68回医師国家試験合格者発表 (本学合格者2名
 合格率 40%)
 8日 附属病院開院3周年記念祝会 (於 附属病院)



8日 附属病院開院3周年記念特別講演 (演題「地域医療について」)

昭和55年

1 月

12日 昭和55年度大学入学者選抜共通第1次学力試験
 13日 (本学会場受験者 708名)
 16日 歩くスキー講習会 (主催 学生課)
 23日



28日 冬季スポーツ大会 (サッカー・卓球・バドミントン)
 2月7日

2 月

6日 スキー遠足
 (対象 第1学生学生 於 十勝岳スキー場)

3 月

4日 昭和55年度旭川医科大学入学試験
 5日 (志願者 286名)
 13日 昭和55年度旭川医科大学入学試験合格者発表
 (121名)
 25日 旭川医科大学第2回卒業証書授与式
 (卒業生87名)



(庶務課・学生課)

サークル 紹介



本学には現在、体育系28、文化系20の学生団体が設立され延 919名の学生諸君が各サークルに参加し、活動しています。

課外活動は諸君の自発性を存分に発揮できる場であり、各サークルはそれぞれ多彩な活動を展開しています。昼休み・放課後のひとときを、円満な人格の養成のために、あるいは健康な心身の育成のために、各自の個性・趣味・能力に応じたサークルで活動すると良いでしょう。

諸君の積極的な参加を希望します。

(学 生 課)

ラグビー部

ある少年がサッカーの試合中興奮してボールを腕に抱えて走りだした。反則である。然し機知に富む英国人はこれを見て新しいスポーツを考えた。美しい英国紳士精神を盛り込んだスポーツ、ラグビーを創った。ボールを投げても蹴っても持ち運んでもいい上に、両チームで30人もいるから、攻防に無限の可能性がある。これこそ明晰な頭脳と緻密な組織プレーと決死の勇気が要求される闘う男のスポーツである。新入生諸君、君達の燃え滾る若い力で、陽光の降り注ぐ広い大地を縦横無尽に駆け回ってみないか。さあ春だ、一緒に走ろう!!初心者歓迎!!

(責任者 倉林均)



部員	経 費	活 動
28	会費(シーズン中のみ) 月額 1,000円 遠征費	㊦~㊦旭川ラグビー協会会長 杯争奪戦 優勝 ㊦~㊦北海道ラグビー選手権大 会準優勝 ㊦~㊦道央選手権大会優勝 北海道学生ラグビー連盟他加盟

卓 球 部

なんといっても人気がある。人を引きつけずにはおかない魅力があるにちがいない。とにかく、人が集まってくるのだ。春の花見に魅せられたのか、敗れても立ち上がる不屈の精神に魅せられたのか、みなそれぞれの想いをこめては白球を打つ。この一瞬に燃えている。

誰も、いつかは勝利を手にするのを疑いはしない。今年こそ、賞状がほしい、決勝戦へ進みたいと望んでいる。勝負という緊張の中で自己は鍛えられる。この若い力に乾杯!! そして、あなたの未知なる力に乾杯!!

卓球が好きなら、それでいい。

(責任者 外木秀文)



部員	経 費	活 動
36	会費 年2~3回1,000~ 2,000円徴収 遠征費	㊦~㊦東医体予戦 4位 ㊦~㊦北医体 5位 旭川卓球協会、北海道学生卓球 連盟、日本卓球協会加盟

陸 上 競 技 部

昨年は陸上競技部が部としての形を整え、大きく飛躍した年でした。全道学生選手権、全道選手権、その他の大会で優勝者、入賞者を出し、東医体でも好成績を残すことができました。

陸上は泥くさいスポーツだと思います。しかし、泥くさいだけに、走り・跳び・投げるという最も原始的な運動であるだけに、多くの人に理屈抜き共感を呼び起こすのではないのでしょうか。陸上競技では自分自身が主役です。平凡な事を非凡な努力でする人こそ非凡な人であるといえます。誰でもが非凡な人間であり得るのです。強い・弱い、男・女には関係ありません。

陸上部は今年、東医体優勝を目指します。会場の千葉県営陸上競技場の赤いタータンの上に「優勝、旭川医科大学」のアナウンスを響かせたいと思っています。走ることに好きな人、自分の力を試してみたい人、家庭的雰囲気陸上部へ来て下さい。

(文責 小黒恵司)

部員	経 費	活 動
7	会費 月額 1,000円 遠征費、協会加入費、 大会参加費	%-%北海道学生陸上競技選手権出場 %地区体、%東医体総合3位 フィールド3位 %-%北海道選手権 %-%中部北海道選手権 全国学生陸上競技協会他加盟

ス キ ー 部

スキー部にはアルペンとディスタンスの二部門があります。とても活発でしかも和気あいあいとしたクラブです。「スキー部？じゃあ冬だけ？」とんでもない、五月の黒岳合宿、六・七月の駅伝、夏休みの合宿、十月のサッカー大会、それに新歓、お花見などの楽しいコンパ、紅葉狩遠足…シーズンオフもなかなか忙しいのです。この時期にみっちり冬のための体力を蓄え、待ちこがれた雪の到来とともに、ただひたすらにすべりまくります。真っ黒に雪焼けした顔に思わずこぼれる充実の微笑—実感してみたい方、スキー部がお待ちしています。

〈個人戦成績〉

第21回東医体

男子 回 転 石丸13位、関口15位
大回転 宮武20位
8 km 岩原23位
リレー 5位
女子 回 転 佐藤優勝、浜口10位
大回転 佐藤優勝

(責任者 佐藤綾子)

部員	経 費	活 動
33	会費 月額 500円 遠征費	S 54 %-%東医体女子2位・男子11位 % 梶見峠駅伝大会6位 S 55 % 全道選手権距離リレー7位 全日本スキー連盟他加盟

ゴ ル フ 部

ゴルフの醍醐味は、何とんでも飛ばすことである。我々は、スコアはともかく、ただ飛ばすことのみ生きがいを感じている(だから試合に弱いと言われる)。一週間にたまった欲求不満をゴルフボールにたたきつけている(精神衛生上よろしい)。さらに、ゴルフは自分との戦いである。他の球技と違って、相手を負かすことイコール勝利ではない。自分に勝ってはじめて勝利をつかむのである。練習は週1回、芝生が一面に敷きつめられたゴルフ場を駆け回っている。経験、年齢、性別、お金、道具の有無、運動神経、いっさい関係なし。

(文責 村上達哉)



部員	経 費	活 動
21	会費 なし	5-10月学連月例及び新入戦(9月) 6月医大・旭大対抗戦1位 6月北海道学生ゴルフ選手権 北海道学生ゴルフ連盟加盟

バ ド ミ ン ト ン 部

バドミントンは、年寄りから若者までだれでもできるスポーツです。とかく運動不足になりがちな新人生徒君、美容健康のため、根性育成のため、バドミントン部に入っただけですか。先輩たちは、みんな大学に入っただけから始めた人ばかり。君もその気になれば、すぐにうまくなることうけあい。顔に自信がない人も体に自信がない人も青春時代にバドミントンをすれば、ステキなおムコさんになれます。夏の合宿はまた一段と男同志で燃えて楽しいのです。君もその青春に何かをかけてみよう!!

(責任者 福田真也)



部員	経 費	活 動
24	会費 月額 1,000円 遠征費	%-%北医体ベスト16 %-%道医体2位 %地区体 % 東医体ベスト16 北海道医科大学羽球連盟加盟

空 手 道 部

強くなりたい! 敵をあざやかにKOしたい!! これは古今東西、男の永久不変のあこがれである。また、将来医者として絶対必要な体力、再試にもくじけない不屈の精神力、これらを養うのに空手はまさにピッタリといえる。

我が空手部はベテランの諸先輩方の指導のもとに日夜練習に励んでおり、段位取得者は既に10名を突破している。

そして鬼殺しの宮本主将、仏の仲、重鎮中川、太っ腹笠茂、スマイルの有山、さらにはブッチャーの異名をとる横山、などユニークな部員がそろっている。

練習は毎日昼休み、於体育館2階道場、初心者大歓迎!! 押忍。

(責任者 宮本康平)



部員	経 費	活 動
17	会費	% 旭川地区大会個人2・3・4位 %~%北海道大会個人ベスト8 %~%北海道選手権個人ベスト8(2名) 北海道空手道連盟他加盟
	月額 400円	
	遠征費	

柔 道 部

我が柔道部も設立後7年目に至った。最近の東医体の戦績をみると、51年予選リーグ4位、52年同3位、53年同3位、54年同2位で決勝トーナメント進出、さらに個人戦では53年に大木(現5年)が重量級で3位、54年には小池(現6年)が軽量級で3位の好成績を残し、徐々にではあるが力がついてきている。

現在我が部では部員数がどうしても足りない。経験者は即試合に出場でき、初心者は1年で有段者となれます。ぜひ1度体育館2階の柔道場まで遊びにくることを勧める。現在有段者8名、内訳は参段1名、武段3名、初段4名である。

(責任者 姉川孝)



部員	経 費	活 動
10	会費	%~%東医体決勝トーナメント 1回戦敗退
	必要なつど徴収	
	遠征費	

サ ッ カ ー 部

部創立以来6年、最初は同好会的なものだった我がクラブも急速に成長し、今では1つのクラブとして、また1つのサッカーチームとしてもある程度のレベルに達することが出来たと自負しています。今年は北医体も旭川で行なわれることになっており、これを機会に更にもう1歩前へ進もうと、大会の準備、練習と忙しい中、全員が頑張っているところです。

サッカーの好きな人は勿論、ちょっとボールでも蹴ってみようかと思っている人も、とにかく思い切り何かをやってみたいと考えている人、大歓迎です。1度グラウンドへ来てみませんか!

(責任者 高橋康二)



部員	経 費	活 動
28	会費	%~%北医体3位 %~%東医体ベスト8 %~%道北学生リーグ1位 %~%旭川社会人リーグ(1部)2位 %~%インカレ全道大会ベスト8 北海道学生サッカー連盟他加盟
	月額 1,000円	
	遠征費 5,000円	

バ レ ー ボ ール 部

最近の大学生は、運動クラブを敬遠する傾向があるそうである。その代わり、同好会は増加しているという。そんな軟弱なことでは、これからの大学生活あるいは、社会の荒波を乗り切ることは出来ないだろう。精神および肉体の鍛練の場として、運動クラブは意義あると思う。特に我がバレー部は、創立以来厳しい練習により輝かしい成績をあげて来た。昨年は、全日本男子バレーと同様試練の一年でありましたが、今年は、一年生の若い力により、バレー部の黄金時代を築くつもりであります。

経験の有無、足の長さは問いません。きみも、きみも、今すぐ体育館に集合しよう。バレー部の未来は、諸君等にかかっているのだ!

(責任者 高草木薫)



部員	経 費	活 動
16	会費 月額 500円 遠征費	5/5-5/5(5/5-5/5)北海道大学バレーボールリーグ春季(秋季)大会 6位(5位) 5/5-5/5地区体決勝トーナメント 1回戦敗退 5/5-5/5東医体ベスト16 全日本大学バレーボール連盟他加盟

山 岳 部

部員に対するアンケート「あなたは何を好んで山登りなどするのですか?」回答、A氏「美しい自然と山男の間の熱い友情」—非現実的夢想家、B君「深雪のラッセル、林道歩き、藪ごぎ」—M思考派、C嬢「じゃがいもの皮むき」—料理教室代用派、D氏「テントのまわりの雪かき」—失業時の日雇い作業想定型、E君「熊との追っかけっこ(より正確には追っかけられっこ)」—インカレでも狙って下さい。今年はどうな回答が得られるのでしょうか?

(責任者 泉直人)



部員	経 費	活 動
9	会費 月額 200円 遠征費	5/5-5/5春山合宿(富良野岳) 5/5-5/5夏山合宿(トムラウシ上流) 5/5 秋山合宿(天塩岳) 5/5-5/5冬山基礎技術山行(十勝岳)

弓 道 部

日本の弓は、その形態と射法において世界に例のないものです。形は単純であり長大であり、そしてその貫通力飛翔力はアーチェリーとはまったく違うものであります。そしてまた、日本の弓が求めるものは、その正確さ

と射法の美しさ、そして精神的自己修練であります。弓をもち的に向い、清浄な気分で矢を放ち、的に当たる利那の名状しがたい気分、外国人をも惹き付ける弓の美しさ。これを求めていくところにこそ、弓道のすばらしさがあるのです。

(責任者 森川満)

部員	経 費	活 動
28	会費 月額 500円 その他 200円 遠征費	5/5 北海道選手権 6位 5/5 地区体 8位 5/5-5/5 東医体 4位 5/5-5/5 争覇戦 3位 4位 日本弓道連盟他加盟



大東流合気武道クラブ

ウォス只今より

大東流合気武道大略をば述べ立てるがまず、自分達は網走に御在住なる大東館館長、大東流宗家武田時宗先生手ずからの御教示を賜った者達であり、年次の演武大会にては恩借を技で報効せんがため、いわんや技で心身を浄化せしめ強靱ならしめんがために日夜、むさくするしくも尊



き本学武道場にて切磋琢磨、部員は多きに過ぎず上下の礼を正す中に共に目指す武道のほそかな喜びがある。ウォスノ一言にては老若男女を問わず従事されておる層の厚いこと、貴君も一度本学体育館二階に来たれ、ウォスノ

(責任者 榎原隆次)

部員	経 費	活 動
15	会費 月額 500円	3/1~3/6大東流合気武道演武大会 大東館加入

軟式テニス愛好会

“テニス”という世の中に紳士のスポーツなどといわれる人がおり、また、スコートをはいた女性が優雅に球を打ち合っているのを見ると、まさにそのように思えるのですが、実際の試合になるとまさに“やじり倒すか倒されるかの勝負”“実力3割、やじりで5割、あとは度胸で勝負がつく”といわれる軟庭。

みなさん、軟庭で精神力をきたえよう。現在、いままでの主力であり試合、その他の面で活躍された旧5年生がぬけクラブはこれから新しい世代へ、新入生諸君、来たれ、軟庭へ!

(尚、軟庭支部に、旅行会、山岳会、湯治の会がありますよ。)

(文責 郡司勇治)



部員	経 費	活 動
24	会費 必要なつど 300円徴収 選正費	3/1 旭川地区4大学対抗戦 第4位 3/1~3/3地区団体戦2回戦進出 個人戦3回戦進出

硬式テニス同好会

やりたい人間がやる、という自主性を尊重するのが当同好会の本質です。週2回の練習日のほか、昼休み、休講などの時間にも適当に集まり、コートを飛び回っています。しかし、今、我々は重大な岐路に立たされています。なぜなら現在6年生が主力なので、実質的には新生のクラブと同じだからです。どのような同好会になるかは、あなた方の若々しい力によって決まるのです。

大学にはいってから、皆ラケットを握った者ばかりなので余分な心配はいりません。部との掛け持ちも十分できます。加えて美貌で知られるだけでなく、姉のような優しさを持っている会長がいる、ということも述べてお

きます。上級生の皆様も、ふるって参加して下さい。

GO UNDER THE SUN AND ENJOY
PLAYING TENNIS.

It's fun jumping and smashing.

(補佐役 矢沢和人)

部員	経 費	活 動
21	会費 年額 2,000円	

写 真 部

「写真は楽しい。それは目前の光景がそのままフィルムに焼付くからである。しかし、写真はむずかしい。それは自分の心境が簡単には印画紙上に再現されえないからである。しかし、そこにこそ写真の本当のすばらしさがあるのだ。」などとえらそうなことを酒が入るとやたら口走るアホのいる集団、それが写真部なのである。はたしてその男の日常はいかに。他人には訳の分からぬ写真を撮りまくりに、人に見せる。当然非難を浴びるのだがそれにもめげず「君にはちょっと難し過ぎたね。」男はそういつつ今日もフィルムを労費しているのである。

(責任者 今井嘉紀)



部員	経 費	活 動
14	会費 年額 1,000円	

医 療 研 究 会

医療研はフィールドワークを中心として、学祭全国医学生ゼミナールでの研究発表など、医療の現状について考えるクラブです。我々医学生が将来その中で生きていく現場・現状を、問題意識を持って研究し学生としての意見を持つのは当然と言えます。特にフィールドでは毎年40人規模でへき地に合宿し、医師と共に検診活動をする他、家庭訪問・座談会なども行います。

この様に地域住民と接し、医療要求を知り我々の生き

方を探る場合は、医療研のみです。

君も医療研で医療の現実に接し、共に考え活動してみようではありませんか！

(責任者 宮本和俊)



部員	経費	活動
48	会費 月額 200円 フィールド・ワーク費	3/1~3/4全国医学生ゼミナール 分科会主催

映画研究会

私達のクラブは、主に今まで自主上映会(16mm)を中心として活動してきました。約1ヶ月に1回の割合で上映会を開いています。上映作品は、各個人の希望とやる気によって決められます。その意味でやる気があれば何でもやれるクラブです。また自主製作映画は、一昨年実写の「ミッキー」を、そして今年アニメーションを製作中です。いつかの機会に上映しようと思います。ほんとうに映画の好きな者の集りです。

映画を見たい人、そしてそれについて語り合いたい人、映画を作りたい人、全員私達のROOMの戸をたたいてください。

(責任者 中井寛明)



部員	経費	活動
20	会費 月額 300円 合宿費 ete	春・夏2回占冠・大滝村において合宿及び映画上映54年度通常上映会8回、特別上映会1回、老人ホームへの映画上映による慰問、文化団体加盟

Jazz 研究会

私達ジャズ研は、演奏活動を通して「いやあ、ジャズって本当にいいもんですねえ」と体で感じ取れるように、日夜練習しています。

ジャズほど無限の可能性を秘めた自由に楽しい音楽があるでしょうか。ジャズ=きどっている、なんて古い古い。フュージョン、ラテン、サンバ、もちろん4ビートのビ・バップ、何でもやっちゃいます。文化会館のコンサートでは、満員御礼の垂れ幕が下がり、FMにはゲスト出演と活発に活動しています。

やったことないし、なんて尻込みするあなた、好きこそものの上手なれ、あなたの可能性に挑戦してみませんか。

(責任者 布村健一)

部員	経費	活動
13	会費 月額 500円	5月新歓コンパ出演 5月ジャズ喫茶「メキシコ」出演 5/20 ジャズ研コンサート (於文化会館) 6月ジャズ喫茶「コモ」出演(4回)

ギター同好会

わがクラブ(正式にはまだ同好会、以下「クラブ」で統一する。)は昨年作られたばかりの新しいクラブです。一応今のところクラシックギターだけを扱っています。活動は毎日昼休みで、水曜日にはプロの先生を招いて教えていただきます。部員はまだ9人しかいませんし、そのうち経験者は2名、他は昨年始めた者です。

フォークギターだけでは飽き足りない人、何か楽器をやってみたい人、その他どんな人でもかまいません。年齢、性別、学年、経験に全く関係なく昼休みに第5セミナーをのぞいてみてください。

(責任者 石田栄)

部員	経費	活動
9	会費 月額 1,000円 発表会参加料	5/20 宮田ギター教室発表会



世界旅行研究会“Vagabond”

我ら、地球市民'80

この小さな日本列島から1歩足を踏み出すだけで、世界中の若者達が、それぞれの国の国旗をリュックにつけて、今日も地球のあちこちを旅している。海外ひとり旅、想像して心配し、やめたりせず、勇気を出して、この素晴らしい地球をきみのものにしたらどうだろう。地球は思ったより狭い。自分の旅をデザインしようとするきみを湯気の立つようなhotな情報が待っている。会の年間予定は、夏季の欧州現地解散の短期合宿、秋の講演会、えとせとら。その他、きみのユニークで新鮮な発想、企画を待っている。

旅に病んで夢は地球をかけめぐる。

(文責 上田 譲二)



部員	経 費	活 動
16	会費 必要なつど 1,000円徴収 旅費	



研究室紹介

■ 外科学第一講座 ■

田村 正 秀

教室の歩みを振り返りますと、昭和48年11月に外科学第1講座が発足、以後附属病院開設までの3年間は、少人数で教室の基礎作り、研究診療に備えて苦労を重ねた事がなつかしく思い出される。昭和51年11月の病院開設以来、本格的に臨床も始まり、症例の増加とともに、現在では、最も忙しい診療科の1つに数えられている。

臨床面では、鮫島教授を中心に、消化器腫瘍、門亢症、小児外科を、一方、久保助教授を中心に、血管外科、肺、縦隔、心臓など胸部外科と臨床面での守備範囲が極めて広いのが特長と云える。当然の事ながら、重症な手術症例が多く、高度の患者管理が要求され、スタッフは忙しい毎日を送っている。ちなみに昨年の手術件数は、ほぼ300例を算え、年々、症例数とくに重症例の増加の傾向にある。

教室の研究活動も極めて活発であり、臨床面でのレパートリーの広さを反映し、スタッフ各人が、多方面の研究テーマを有し、多忙な臨床の合間をぬって実験研究に従事している。その主なものを拾ってみると、癌を中心とした悪性腫瘍の治療、理想的人工血管開発をめざしたプロジェクト、呼吸不全病態の解明と治療、人工心肺など体外循環の研究、各種生体、人工材料の臨床応用、人工臓器の開発などユニークな研究活動が行なわれている。

教室のスタッフは、鮫島教授、久保助教授以下、講師2、助手6、自治医大研修生2、さらに昨年より4名の本学卒業生を迎え、総勢16名、もう少しで教室内紅白野球試合が出来そうである。現在、本学卒業生は、教室関連病院(旭川市立、日赤、釧路市立病院)に、1年間の初期研修に出ている。また教室員のお世話を願っている年頃の女性が二人、美人揃いの為か、すでに結婚されている。もう1人実験助手として奮闘中の定時制高校生がいる。臨床、研究に多忙な教室であるが、春のスキー、秋の野球などスポーツも盛ん、昨年夏の医局対抗野球には、医局長以下全員の出場により見事優勝、ビールの美味しかった事を思い出します。

教室は、教授の人柄のせい、常になごやかな雰囲気にもまれ、学生諸君も自由に出入りしている様です。医局の戸は、いつも開いております。気軽に立寄られるのを歓迎いたします。

(第一外科 講師)

歩くスキー講習会

冬の手軽なスポーツに親しむことを目的に、歩くスキー講習会を1月16日(水)、23日(水)の2回実施した。

第1回目は5名が参加し、本間実講師から本学野球場で初歩的指導を受けた後、医大周辺を滑走した。

第2回目は10名の参加者がマイクロバスで神楽岡公園に行き雪の降る中、上り下りの3kmの歩くスキーコースに挑戦、元気に歩き続ける参加者の顔にはうっすらと汗が浮かんでいた。
(学生課)

冬季スポーツ大会

毎年学生が主催し行っている冬季スポーツ大会が、本年は1月28日(月)から2月7日(水)までの昼休みを利用して実施され、サッカー・バドミントン・卓球の3種目に25チームが参加し連日熱戦が繰り広げられた。成績は次のとおり。

サッカー 1位最近おとなしくなった幸荘チーム 2位2B
バドミントン 1位職員Z 2位サネモネラチフィ
卓球 1位一般教育 2位庶務課
(学生課)

スキー遠足

第1学年学生を対象としたスキー遠足が2月6日(水)十勝岳スキー場で実施された。参加した第1学年学生101名、第1学年学年担当、グループ担任4名、講師6名は3台のバスに分乗しスキー場に到着、講師挨拶、諸注意等の後、班毎に分れ例年になく雪の少ないゲレンデと白金温泉までの林間コースで指導を受けた。参加学生は日頃の体育授業の成果を見せながらスキーを楽しんでいた。天候にも恵まれ事故もなく最後まで明るく元気な声が響いていた。
(学生課)



窓外



十勝岳

保坂明郎

— 暇の効用 —

「暇がない」というのが男の口癖だとよく言われるが、実際にそうなのだから仕方がない。この狭い国土の中で一億何千万かの人間が食ってこうというのだから、或る程度は逃れられない宿命なのであろう。若い時には、暇と金というものは年令をとれば順ぐりに当方に廻って来るものと思っていたが、未だに余り縁がない所を見ると日本の社会の仕組みが悪いか道を誤ったかのどちらかなのであろう。

専門違いの、特に文科系統の友人に言わせると、「兎に角まともにさえやっていれば並以上の生活が出来て失業の心配がない」のだから結構なものだということになるらしい。どうやら医学部ブームはこういう最大公約数的な意見の反映でもあろうか。しかし少くとも——どうせ分ってはいくれないだろうが——学生時代はもちろん、医師になってから自分の専門について勉強せねばならないことは他の分野に比べて遙かに多いような気がする。これは大学の教師としてでなく、医師一般としての話である。

気がつかない人が居るかも知れないが、当大学の1学

年のカリキュラムはかなり弛くなっている筈である。長年の受験戦争が終った所だから、せめて「試験やつれ」から開放してあげようとの、ささやかな親心が盛られているのである。学年進行とともにスケジュールは厳しくなって来るが、大学での勉強のしかたが身について来るから、何時とはなしにそれに適応する能力が備って来る仕掛けになっている。

多忙すぎて何も出来ないというのは実は一種の自己欺瞞であり怠惰の証であると言えなくもない。暇というものは「あるもの」ではなくて「作るものだ」というのは一面の真理である。そのためには「やる気」と「計画性」が要求される。医学生は忙しいといっても、本学の場合週50時間の自由時間がある。これは1日のうち睡眠に8時間、食事に3時間を引いてあるから、我々から見れば驚異的な時間数である。この貴重な時間の割りふりを考えたことがあるだろうか。レポートや復習に時間をとられるとしても平均すれば10時間程度のものであろうから、あとの40時間はもっぱら体力作りと一般教養の時間に当てられる筈である。(余談だが例えば家庭教師のバイトをすると、上記の計算から少くとも6時間—12%以上—引かぬばならないから、体力と学力に自信のない向きは一考を要する)。

医師には奇人・変人が多いという説があり、それほどではないにしても大人子供のような人が居ないとは言えない。これはひとつには余暇の少ないこと、対人関係が限られていることにもよると思われる。学生時代が一番暇なのだということを忘れないで欲しい。札幌まで行く間に文庫本が一冊読めるのである。(眼科学講座 教授)